

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	静岡県磐田市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	磐田市伝統文化保存記録・育成事業		
4 実施計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>民俗文化財を含む文化財活用指針を示した「磐田市文化財保護基本構想」（平成23年度策定）、「磐田市民俗文化財記録保存等事業実施基準」を踏まえ、市内に存在する文化遺産の保護・活用・後継者の育成を進めるため、当該文化遺産の調査や記録作成、周知・顕彰、周辺環境の整備を実施する。</p> <p>市内に伝承する文化遺産(民俗文化財)は後継者の不足、社会変革に伴う環境の変化により伝承すら困難になっている。このため当該文化遺産の調査・記録作成業務や周辺環境整備を実施することで、保護・活用のための人的・物理的基礎を確立するものである。</p> <p>平成28～29年度は豊岡地区の遠州大念仏保存記録作成及び後継者育成事業を実施し、平成30～34年度は29年度事業の実績などを踏まえ、新たに文化遺産を対象とした保存記録・育成事業を展開する。</p> <p>また、磐田市伝統文化活性化実行委員会や地域の保護団体と連携し、本事業計画によって作成したDVDを活用した講座・イベントなどを実施し、民俗文化財の保護・顕彰や、地域活性化に取り組む。</p> <p>※ 豊岡地区には7ヶ所に遠州大念仏が伝わっているが、28年度は4ヶ所の映像撮影を行った。29年度は残り3ヶ所の撮影と28年度撮影分を含む画像の編集作業を実施する。</p>			
6 実施体制			
<p>磐田市が全体計画の企画・調整・事業指導を行い、事業の主体は磐田市伝統文化活性化実行委員会が行う。また、同委員会のもと映像記録を行なう小委員会（磐田市民俗記録作成委員会）を設置し事業の進捗をはかる。新たな個別事業を加える際は個別事業進捗のための小委員会を設ける。</p> <p>指導・企画 磐田市（教育委員会文化財課） 事業主体 磐田市伝統文化活性化実行委員会 実施組織 磐田市民俗記録作成委員会 協力組織 遠州大念仏豊岡支部（各組）・関係自治会</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 6,966 千円	平成29年度申請額： 2,454 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙2の通り	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>地域に伝わる文化遺産、伝統文化に携わることで、本事業の参加者をはじめ、視聴した者を含む関連するすべての地域住民の文化遺産に対する意識の変化が期待できる。</p> <p>成果品を地域や学校関係に提供することで、民俗文化財の後継者の育成がはかられ、将来への文化遺産継承の人的基礎を整える素材となる。また、地域文化を見直す機会ができ、地域の共通の精神的支柱としての、文化遺産を見直す機会ができる。</p> <p>成果品を映像コンテンツとして磐田市HPや観光振興関係機関等へ提供することで、行事への観光・見学者の増加・集客が期待できる。</p> <p>地域に伝わる民俗文化の映像を視聴、講話を聴くことで、様々な文化遺産に触れる契機となるとともに、広く文化遺産への意識が芽生え、その普及がはかられることが期待できる。</p> <p>また、事業を通じ、地域住民と行政、保存団体、観光振興団体の交流・協同がはかられる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	作成したDVDを使った視写会や講演会 図書館・公民館（地区交流センター）等での貸し出し		
事業概要：	DVDの補足資料としての解説ガイドの作成		
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>平成23年度に「歴史文化基本構想」に準じる「磐田市文化財保護基本構想」を策定した。「磐田市文化財保護基本構想」は市内に点在する民俗文化財を含む文化財を総合的に捉え、地域活性を念頭に置いた文化財活用指針を示したものである。「磐田市文化財保護基本構想」に沿った総合的な文化財活用事業を推進するとともに、同構想の問題点の検証を進め、改めて「歴史文化基本構想」として提示、策定を行う。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	磐田市教育委員会文化財課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の祭礼行事等への入込客数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	関連行事の関連イベント等(蝉しぐれ盆)への集客			関連事業:	伝統文化保存記録・育成事業	
目標値 1 :	平成 28 年度		300 人	⇒	平成 33 年度 480 人	
設定根拠 1 :	大念仏が演じられるイベントのうち恒常的に実施してる「蝉しぐれ盆」を指標の対象とする。28年度に300人が見学しているが、年10%の増加を目標とする。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	見付天神裸祭、米とぎまつり、掛塚屋台まつりなどへの見学者(主催者発表)の増減			関連事業:	伝統文化保存記録・育成事業	
目標値 2 :	平成 28 年度		15,000 人	⇒	平成 33 年度 16,000 人	
設定根拠 2 :	見学者の増加を年率10%と設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	豊岡地区遠州大念仏の保存団体構成員の加入者数			関連事業:	伝統文化保存記録・育成事業	
目標値 3 :	平成 28 年度		280 人	⇒	平成 33 年度 300 人	
設定根拠 3 :	減少傾向にある各組構成員を現状280人に対し5%の増員を目指す					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 4 :	その他					
評価指標区分 4 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 4 :	インターネット等に配信した映像の視聴数			関連事業:	伝統文化保存記録・育成事業	
目標値 4 :	平成 28 年度		4,500 回	⇒	平成 33 年度 5,000 回	
設定根拠 4 :	重要無形民俗文化財である見付天神裸祭の映像は平成28年度まで4500回が視聴されている。新規動画の視聴数を見付天神裸祭画像と同程度とする。					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
回	回	回	回	回	回	

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	磐田市伝統文化保存記録・育成事業		実施団体：	磐田市民俗記録作成委員会			
事業区分：	記録作成		事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	<p>地域特有の伝統的な民俗行事は、社会状況の変化により、継承も難しく、後継者の減少など、旧来の形態を残すことが困難になり、行事そのものの存続さえも危ぶまれ、途絶えてしまった行事も多い。磐田市内に伝わる民俗行事も後継者の不足など同様な危惧に直面しており、早急に現在の様子を記録化するとともに後継者の育成をはかる必要がある。</p> <p>市内に伝承する民俗文化財・民俗行事を撮影し、行事の所作すべてを網羅し保存団体関係者に編集した保存伝承版、わかりやすく30分程度に編集した一般市民向けの普及版、インターネットHP等に提供するPR用の短縮版の3種類を作成する。保存版・普及版は関係保存団体をはじめ磐田市内の図書館・学校などの公共施設（機関）に配布し、市民への情報の提供のほか後継者の育成のために活用する。</p> <p>磐田市豊岡地区には10ヶ所以上で遠州大念仏が行われていたが、後継者等の問題から途絶え、現在では7ヶ所で大念仏が伝承されている。平成28・29年度は豊岡地区に伝承されてる遠州大念仏の様子を調査・記録化し、DVDに編集する。28年に4ヶ所を撮影した。29年度は残り3ヶ所の撮影と画像の編集・DVDを作成する。</p>						
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等			（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	図書館等での閲覧回数。						
目標値：	平成 28 年度		30 回	⇒	平成 33 年度		100 回
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
回	回	回	回	回	回		